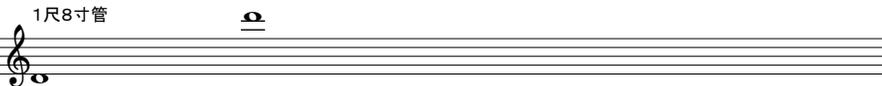
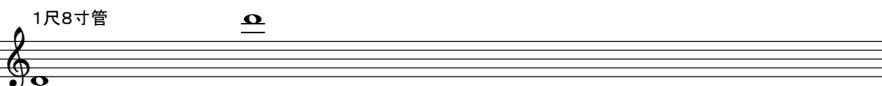


はな さ きせつ  
花咲く季節に

加羅古呂庵 一泉

2021.2.7 作曲

尺八 I 1尺8寸管 

尺八 II 1尺8寸管 

箏 I 乃木調子(一:G3)から一を一音上げ 四・九調弦替えあり 

箏 II 楽調子(一:D3) 二・六・斗調弦替えあり 

箏 III 楽調子(一:D3) 二・六・斗調弦替えあり 

二 三 五 七 九 斗 為 巾

運指、奏法については、適宜工夫していただいでけこうです。

## はな さ きせつ 花咲く季節に

立春を過ぎると、冬の冴えた空気が何となく和んできて、オオイヌノフグリ  
の青い可憐な花が咲き始めると、春への期待が膨らんできます。小学校に上がる前  
に住んでいた家は、裏がすぐ田んぼで、冬は稲の切り株ばかりが目立っていたの  
が、気がつくといつの間にかれんげ草が咲き乱れているのです。遠くに見える  
山も、冬のくっきりとした姿から、緑がかってきているようです。そして、春の  
盛りには一面の菜の花を風が吹き渡っていくのでした。

そんな原体験をもとに、俳句の季語から「れんげ田」「山笑う」「花菜風」の3  
つを選んで、箏と尺八による合奏曲を作ってみました。

れんげ草の和名は「紫雲英」ともいうそうですが、私は子どもの頃から「れん  
げ」のほうになじんできました。その根にバクテリアが共生し窒素を蓄えるので、  
田んぼに働きこんで肥料としたそうです。紫の雲が低くたなびくような「れんげ  
田」の風景も、今は見かけることがなくなりました。

季語の「山笑う」は、春になって山の木々が芽吹き、花も咲き始めて、明るく  
生気に満ちた感じになるさまをいうそうです。れんげ田から見渡すと、そこまで  
は見えませんでした。春の山は穏やかに優しく見えたものです。

菜の花は、早いところでは1月くらいから咲き始め、5月くらいまで春を彩  
ってくれますが、その黄色い花色は気持ちも明るくしてくれます。菜の花畑を吹  
き渡る風が黄色い花々を揺らす頃、私は新しい地に旅立つことになったのでし  
た。花咲く季節は、別れの季節でもあり、新しい世界に胸膨らませる季節でもあ  
ります。

	41	f	37mf	mf	33	29	25	21
V	V	人 チ 人 チ 人 チ 人 チ	人 チ 人 チ 人 チ 人 チ	人 チ 人 チ 人 チ 人 チ	V	V	V	V
V	V	人 チ 人 チ 人 チ 人 チ	人 チ 人 チ 人 チ 人 チ	人 チ 人 チ 人 チ 人 チ	V	V	V	V
V	V	人 チ 人 チ 人 チ 人 チ	人 チ 人 チ 人 チ 人 チ	人 チ 人 チ 人 チ 人 チ	V	V	V	V
V	V	人 チ 人 チ 人 チ 人 チ	人 チ 人 チ 人 チ 人 チ	人 チ 人 チ 人 チ 人 チ	V	V	V	V

	17	13	9	5	J = 104	尺八II	尺八I	1
人 チ 人 チ 人 チ 人 チ								
人 チ 人 チ 人 チ 人 チ								
人 チ 人 チ 人 チ 人 チ								
人 チ 人 チ 人 チ 人 チ								

花咲く季節に  
加羅古呂庵 一泉作曲

89	85	81	77	73	69

65	61	57	53	49	45

	137	133	129	125	121	117



209		205		201		197		193		189	
フ フ	チ チ					フ フ	チ チ	フ フ	チ チ		
		V	V	V	V					V	V
チ チ	人 人							○	○		
<i>ff</i>	<i>ff</i>	<i>f</i>	<i>f</i>								
>ロ >ロ >ロ >ロ	>チ >チ >チ >チ	フ フ	フ フ			>ロ >ロ >ロ >ロ	>ロ >ロ >ロ >ロ			V	V
				V	V			V	V	V	V
		フ フ	チ チ			フ フ	チ チ				
>フ >フ	>人 >人	チ チ	人 人			フ フ	人 人			V	V
				V	V			V	V	V	V
		フ フ	ロ ロ								
>フ >フ	>ロ >ロ	チ チ	フ フ			フ フ	ロ ロ	<i>f</i>	<i>f</i>	<i>mf</i>	<i>mf</i>
				V	V					V	V
○	○	人 人	フ フ			○	○			○	○